



Photo by (c) Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

**私たちには、時間という壁が
消えて奇跡が現れる神聖な場
所が必要だ。**

ジョセフ・キャンベル

今朝の新聞に何が載っていたか、友だちはだれなのか、だれに借りがあり、だれに貸しがあるのか、そんなことを一切忘れるような空間、ないしは一日のうちのひとときがなくてはならない。



Photo by (c) Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

自分は生きようとする生命に
かこまれて生きている、生き
ようとする生命である

シュバイツァー



牧場で牛にやる草
をたくさん刈り取っ
た農夫は、帰り道で
おもしろ半分、道
ばたの花を一本でも
折らないようにしな
ければならない。

なぜなら、殺さなくてすむ生命を、
殺すことになるからである。

シュバイツァ



Photo by (c)Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

ひとつのものだけを選び出そうとしても
それは森羅万象
あらゆるものにつながっているのです

ジョン・ミュア



Photo by (c)Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

自然とは訪れるための場所ではない
それは我々にとっての「故郷（ホーム）」
なのだ

ゲーリー スナイダー

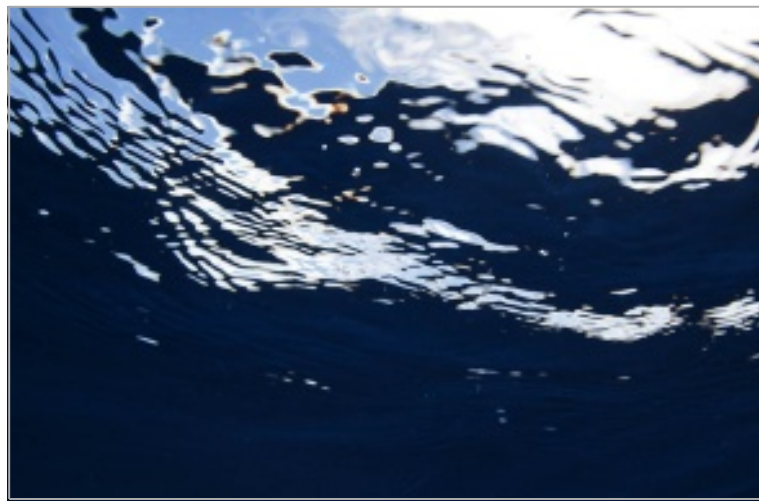


Photo by (c) Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

いいかい。実は小さな波の話で、その波は海の中でぶかぶか上ったり下がったり、楽しい時を過ごしていた。気持ちのいい風、すがすがしい空気-ところがやがて、他の波たちが目の前で次々に岸に砕けるのに気がついた。『わあ、たいへんだ。ぼくもああなるのか』そこへもう一つの波がやってきた。最初の波が暗い顔をしているのを見て、『何がそんなに悲しいんだ？』とたずねる。最初の波は答えた。「わかっちゃいないね。ぼくたち波はみんな砕けちゃうんだぜ！みんななんにもなくなる！ああおそろしい」すると二番目の波がこう言った。

『ばか、わかっちゃいないのはおまえだよ。お前は波なんかじゃない。海の一部なんだよ』

モリー先生との日曜日



Photo by (c)Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

ビジョンの探究は「未来」
に思いを馳せることではない。
Visionの「夢」は「今、ここ」
の自分からやってくる。

人があるがままの自分になる
時、自分の内からやってくる。
生命の木として、大地の上で
凜とたつために、人の森で生
きていくために

Mitakuye Oyashin わたし
につながるすべてのものたちよ。

松木正

MITAKUYE OYASHIN (ミタクエ オヤシン)とは「わたしと つながる
すべてのものへ わたしは すべてと つながっている」という意味。



う里ま関
そ「望の
戻は、然
りのなく、
取りのなく、
取るなく、
がいは人と
ちては「人
たし」でい
私と山しい
係」。
あ
との谷戸で
していくの
は、自然の
とではなく、
生でできる
なのです。

豊田佐々雄



誰かの歌声が聞こえてきた。古いエスキモの歌だった。見ると、誰もいない氷の見晴らし台のうえで、老婆が海に向かって踊っている。ゆっくりとした動きで、何かに語りかけているようだった。そ

れは古くから伝わるクジラに感謝する踊りに違いなかった。近づくとマイラは泣いていた。ぼくの存在などありはしないかのように踊り続けている。

他者の生命を奪うことでしかわかり得ない、生命への想い、そして感謝。

Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

星野道夫



Photo by (c) Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

人は目耳鼻口という穴が開いているが
この七つの穴をいつも開けて、
外の刺激を追っていたら、
心も体もやがては
消耗しちまう。
時には
その穴のうちのどれかを閉めて、
母親の所へ戻るがいい。そうすれば
身も心も長持ちするんだよ。

加藤祥造



虚（うつろ）とは
受け容れる
能力のこゝとだ
目に見えぬ
大いなる流れを
受け容れる
それには
うつろはで
静かなうな
谷のよる
心が要る

老子



Photo by (c)Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

木々は自分の自由を持っている

クリシュナムルティ

それはセカセカ走り回る人間には持てない自由だ。



Photo by (c)Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

あらゆる花に宿るもの
あらゆる水に宿るもの
あらゆる風に宿るもの
それがわたしたち
ひとりひとりの中にあるんだ
そしてそれは
誰ひとり

あなたから奪い取れぬものなのだ

加藤祥造



木はひとつも言葉を
もっていない
けれども木が
微風にさやく時

国々で
人々はただひとつの音に
耳をすます
ただひとつの世界に
耳をすます

谷川俊太郎



Photo by (c) Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

今朝一滴の水のすきとおった冷たさが
ぼくに人間とは何かを教える
魚たちと鳥たちとそして
ぼくを殺すかもしれぬけものすら
その水をわかちあいたい

谷川俊太郎



Photo by (c)Tomo.Yun
<http://www.yunphoto.net>

「私たちの星」
はだして踏みしめることの出来る星
土の星
夜もいい匂いでいっぱい星
花の星
ひとしずくの露がやがて海へと育つ星
水の星
道ばたにクサイチゴがかくれている星
おいしい星
遠くから歌声の聞こえてくる星
風の星
さまざまな言葉が同じ喜びと悲しみを語る星
愛の星
すべてのいのちがいつかともに憩う星
ふるさとの星
数限りない星の中のただひとつの星
私たちの星

谷川俊太郎